

特集 園芸メガ団地 白神ねぎ生産拡大に向けて

インタビュー

昨年よりスタートした園芸メガ団地の現地を取材しました。現地では4つの経営体入植者のうち、農事組合法人轟ネオファーム代表理事の高橋さんほか職員の方から現況を伺いました。

園芸メガ団地の概要について教えてください。

高橋：JAあきた白神が母体となり、従来の水稲依存の経営から園芸品目の生産振興を図ろうというものが始まりです。農地集約による経営の効率化を目指し、県事業である園芸メガ団地整備事業を活用し大規模栽培による周年出荷を確立することで、白神ねぎの生産拡大を図るものです。

白神ねぎの特徴を教えてください。

高橋：組合等による検査を徹底し、高品質のねぎを提供しているのが、比較的単価が安定しています。審査に適合しないと白い箱から茶箱での出荷となるため慎重に検査をしています（笑）。ただ生産量が多くなると比例してロスも増加するため、今後の課題の一つとなっています。

入植者となった経緯について教えてください。

高橋：整備事業の立ち上げと同時期に、近隣の生産者と農地集約のための組合を立ち上げる話が出ていました。今回はタイミンクよく組合設立と整備事業等が同じような時期だったため、大いに助かっています。

生育状況はどうでしょうか？

高橋：7月下旬の初出荷に向け、順調に育っています。ただ欲を言えばもう少しだけ雨が降

作 型	面 積	見込販売額
春 ねぎ (4月～6月)	1.3ha	10,530千円
越冬早どりねぎ (7月～8月)	1.3ha	8,445千円
夏 ねぎ (8月～9月)	3.9ha	31,590千円
秋冬ねぎ・囲いねぎ (10月～2月)	6.5ha	54,896千円
合 計 面 積	13ha	105,461千円

ってくるのと助かります。初出荷では約4反歩ほどを予定しています。年間では4町歩を目指しています。

人出は十分足りていますか？担い手の確保に苦勞されていますか？

高橋：この時期は私を含めて4名体制で管理をしています。出荷時期になるとさすがに人出が足りないのが、臨時的に雇用を確保し対応する予定です。私としてもメガ団地以前の生産量から倍の量となるので、人出の確保にも気を配りたいところです。また、今現在は20代の従事者もおりますので、頼もしい限りです。

最後に、現在お困りごとはありますか？

メガ団地の整備をしていたとき非常に助かっていますが、想定以上に砂利も土にまざっており、機械の故障や生育に支障を来しかねません。可能であれば土壌の再整備も検討していただきたいところです。また生産量が倍になったからといって、雇用者も倍になるわけではないので経営者としてバランスをとっていくかに利益を確保し、雇用者に還元していくかも考えています。一反歩あたり70万～80万円ほどの単価で考えていますが、上手にやりくりしないといけないですね。

現場の生のお声を聞かせていただき、大変勉強になりました。今後の白神ねぎの生産拡大を期待しております。ありがとうございました。

取材：伊藤洋文 佐藤智一

